『平和を希求する精神』の理念のもと 積極的に国際化、産学官連携を推進 世界から選ばれ、地域に愛される大学へ

12学部4研究科1研究院を擁する、わが国屈指の総合研究大学である広島大学。人類史上初めての原子爆弾が投下された被爆地の大学として、理念5原則(1)のもと自由で平和な社会を実現し、人類の幸福に貢献することを使命としています。「スーパーグローバル大学創成支援事業」（トップ型）、「卓越大学院プログラム」に中・四国で唯一選ばれているほか、「ＴＨＥインパクトランキング2023」でも2年連続国内3位にランクインするなど、その卓越した実力が国内外で高く評価されています。

2024年には、前史も含めて開学150周年を迎える広島大学。「100年後にも世界で光り輝く」大学であるため、大学改革に積極的に取り組んでいます。

越智光夫（おちみつお）学長

1977年広島大学医学部卒業。84年医学博士（広島大学）。専門は膝関節外科。島根医科大学整形外科学教授、広島大学整形外科学教授、同大学病院長、同大学理事・副学長などを経て2015年より現職。19-21年文部科学省科学技術・学術審議会総合政策特別委員会委員、17-22年日本学術会議会員、11-17年および22年から日本学術会議連携会員。2015年紫綬褒章を受章。

〒739-8511　広島県東広島市鏡山１-３-２　広報室　TEL 082-424-3701　https://www.hiroshima-u.ac.jp/

150周年の節目に「知」と人材育成の拠点を構築

２０２４年に広島大学は、大学創立（１９４９年）から75年、前身の白島学校創設から１５０周年の大きな節目を迎えます。今年４月には75＋75周年記念事業がスタート。１００年後にも世界で光り輝く大学に向け、地域の中核大学となり、また世界トップレベルの教育研究拠点を構築し、「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」の育成を目指しています。

現在は、３つのキャンパスの特性を生かした拠点づくりが進行中です。

まず、「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」となる東千田キャンパス（広島市中区）には、法学部、大学院人間社会科学研究科人文社会科学専攻法学・政治学プログラムが移転。

医療系学部・大学院と大学病院を擁する霞キャンパス（広島市南区）は、「医療人養成拠点」としてハイレベルで優秀な医療人の養成と最先端医療の提供により地域へ貢献します。

そして東広島キャンパス（東広島市）は、新たに整備した国際交流拠点「MIRAI CREA（ミライ クリエ）」を中心に学生・留学生や研究者との交流を促進し、持続可能な未来を創り出す国際的な教育研究拠点としてさらなる進化を目指します。

一方、法学部が移転した後の東広島キャンパスには、２０２２年には「アリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営学部 広島大学グローバル校」が開校しました。国立大学のキャンパス内に海外の大学を誘致するのは初の試みで、今後、多様な形での知的・人的交流が見込まれます。

新しい平和科学を追求するＳＤＧｓの先を見据えた研究

世界トップクラスの教育研究拠点を目指す広島大学では、世界的に注目される研究が多数進められています。

２０２２年度には文部科学省から中・四国の大学・機関で初となる世界トップレベル研究拠点プログラム（ＷＰＩ）に採択された「持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点(2)」が本格的に始動しました。

また、「半導体・超物質研究を核とする異分野融合イノベーションエコシステムの形成」の構想が２０２３年４月に文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、翌５月には、日本５大学、米国６大学協働の「日米半導体連携パートナーシップ」に参画しています。

このほか、同年４月には全研究科連係のもと、Society 5.0の国際展開を担う人材を育成する、「スマートソサイエティ実践科学研究院(3)」を大学院に設置するなど、幅広い先端的な研究に注目が集まっています。

これらの取り組みなどを踏まえ、２０２３年５月、本学のあるべき姿の実現に向け、重点的に取り組む５つの事項『President 5 Initiatives for Peace Sciences―新しい平和科学（安全・安心を実現する〝創る平和〟）』を策定しました。「〝創る平和〟には、被爆地に創設された大学として、ＳＤＧｓの先の社会を見据えて課題解決に取り組み、平和を希求するだけでなく、積極的に創造していくという意味を込めています」と越智光夫学長は語ります。

日米半導体連携パートナーシップに参画
©Photo by the White House

産学官連携の推進で研究と社会貢献がさらに加速

広島大学は地域の人材育成とシンクタンクとしての役割を果たすべく、地域と大学が協働する「Town & Gown構想(4)」を推進しています。

東広島キャンパス全景（東広島市）

２０１９年からの東広島市との取り組みに続き、２０２３年、新たに呉市との新構想が加わりました。

また、オールジャパン体制のゲノム編集に関わる産学共創コンソーシアムである「バイオＤＸ産学共創拠点」は、ＪＳＴ（科学技術振興機構）共創の場形成支援プログラム（ＣＯＩ-ＮＥＸＴ）（共創分野・本格型）の支援を受けて運営しています。

「本学とキユーピー株式会社でアレルギー低減卵の開発に成功しました。今後、医薬品などにも新しい価値を創出していきたいですね」（越智学長）

前身の施設から65周年を迎えた原爆放射線医科学研究所は、大学附置の同分野研究所としては国内最大規模。白血病やがんなど被爆者の医療・医学研究で世界をリードし、原子力災害医療分野の人材育成や緊急被爆医療、放射線障害医療の共同研究を推進しています。

２０２５年には日米共同研究機関である放射線影響研究所が霞キャンパスに移転予定で、さらなる研究の促進が期待されます。

多彩な教育プログラムで世界に羽ばたく教養人を育成

「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」の育成を目指し、広島大学では多彩な教育プログラムを整備しています。教育の質向上と卒業生の質の担保に資する広島大学独自の教育システムである到達目標型教育プログラム「HiPROSPECTS®」は、多様な学修意欲に応えるもので、学士号の取得を目的にした主専攻プログラム、他の学部教育の概要を学べる副専攻プログラム、特定のテーマや資格取得を目指す特定プログラムからなり、学生はプログラム毎に定められた到達目標の実現に向けて学修を進めています。

特定プログラム「Global Peace Leadership Program（GPLP）」は、英語による平和科目や国際交流科目など5分野14単位の修得および2カ月～半年程度の海外留学が必須となっており、国際教養力を備えたリーダーを育てます。

世界で活躍する多様な分野のリーダーたちが、自身の学生時代や困難を乗り越えた経験を語る「世界に羽ばたく。教養の力」も人気の高い講義。全学部必修の「大学教育入門」の一環で、２０２３年度は13回開講しました。

アントレプレナー教育にも力を入れており、教養教育科目から大学院生、社会人向けの講座まで多様なチャレンジを応援しています。

また、教育コンテンツのデジタル化も進めています。「知を鍛える―広大名講義１００選」では、多彩な学術分野の名講義が視聴できます。

コロナ禍で留学する学生数が一時的に減少しましたが、オンラインで海外の学生と協働作業や交流のあり方を学ぶ「e-STARTプログラム」などで、海外留学への関心を高める工夫も行っています。

課題解決型能力を問う入試 女性や経済支援も充実

広島大学の入学者選抜(5)は、大きく一般選抜と広島大学光り輝き入試の２つに分けられます。光り輝き入試には総合型選抜と学校推薦型選抜があり、調査書や面接、プレゼンテーション、小論文などで審査します。

「将来的には暗記に頼りがちな一般入試枠の比率を下げ、課題解決力を測る方式を重視することも検討します」と、越智学長は入試改革にも意欲的です。

女性の活躍拡大に向けても、産学官連携で取り組んでいます。女性の採用を増やし、保育施設を充実させるなどの施策により、現在女性教員在籍割合は約22％と国立大学の平均値18・7％を大きく上回っています。

また、フェニックス奨学制度をはじめ、さまざまな奨学制度や経済支援があり、大学院まで安心して学業を続けることができます。

「広島大学は平和を希求する大学です。充実した平和科目や豊かな学問領域から幅広い視点で学び、リーダーの素養を養ってほしい。そのために国際化や産学官連携を進めており、世界から選ばれ、地域に愛される大学を目指していきます」と越智学長は語っています。

(1) 理念５原則

「平和を希求する精神」「新たなる知の創造」「豊かな人間性を培う教育」「地域社会・国際社会との共存」「絶えざる自己変革」の５原則。

(2) 持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点

キラルとは、右手と左手のように鏡像の関係にあり、互いに重なり合わない物質の状態を指す。地球上の生命を構成するアミノ酸のほとんどは左手型のキラル分子である。この構造が生じる原因と性質を明らかにすることで、生命と素粒子・宇宙のキラリティ（対掌性）の偏りの起源に挑むという壮大なテーマに、数学、物理学、化学、生物学、材料化学、宇宙・惑星化学など多様な分野の研究者が世界中から集結し、新たな学術分野「キラルノット超物質創成学」を確立。エネルギー、資源、難治性疾患など多くの問題解決に挑む。

(3) スマートソサイエティ実践科学研究院

人類社会において、歴史や文化の異なる社会課題にも柔軟に対応できる制度や技術を設計・開発・実装し、Society 5.0の国際展開を担うグローバル人材を育成する広島大学初の研究科等連係課程実施基本組織。

(4) Town & Gown構想

広島大学と地方自治体が一体となって持続的な地域の発展と大学の進化をともに目指す構想。東広島市および、民間企業と共に設置したスマートシティ共創コンソーシアムを中心に、キャンパスを実証実験のフィールドとして活用し、街への実装と人材育成に取り組む。

今年「アジアにおける新たな海洋・海事の拠点づくり」に向けたTown & Gown構想推進のための協定を呉市、広島大学、海上保安大学校、公益財団法人笹川平和財団で締結。世界海事大学と国際交流協定も結び、瀬戸内海に接する大学として、海洋・海事や食料安全など持続可能な社会の実現に向けた研究と人材育成に取り組む。

(5) 入学者選抜

2023年度入試から生物生産学部で、高校時代に取り組んだ探究活動を積極的に評価する「課題研究評価型」入試、医学部医学科の一般選抜で「理科重視型」に加えて「英数重視型」入試が導入された。情報科学部は定員を80人から150人に増員し、広島県内への就職を促す「地方創生枠」の入学者選抜が2023年度からスタート。2024年度入試からは、総合科学部でも研究志向の強い学生を確保する「サイエンス研究評価型」入試を導入。